

堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備事業に係る 事後調査計画の概要

1. 事業者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

事業者の名称 : 株式会社 堺クリーンシステム
代表者の氏名 : 代表取締役社長 米田 勝司
主たる事務所の所在地 : 大阪府堺市北区南花田町 32 番地 1

2. 事業の名称

堺市・資源循環型廃棄物処理施設整備事業

3. 対象事業の実施予定

3-1. 事業の目的

本事業は、堺市内で排出される一般廃棄物（家庭ごみ、粗大ごみ、事業系ごみ、環境美化ごみ等）を安全、安定的、衛生的かつ経済的に処理し、処理過程で発生する溶融固化物及び金属類をできる限り資源化し、また、ごみの持つエネルギーを有効に活用できる資源循環型廃棄物処理施設を整備することを目的とし、循環型社会への貢献を目指すものである。

3-2. 事業の実施内容

(1) 事業の実施場所

堺市堺区築港八幡町 1-70 外

(2) 事業の実施期間

着工：平成 22 年 6 月（予定）

竣工：平成 25 年 3 月（予定）

(3) 施設計画

施設計画の概要は表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1 施設計画の概要

事業計画地		堺市堺区築港八幡町 1-70 外		
敷地面積		30,000 m ²		
緑地計画		緑地面積 30%以上		
ごみ処理施設	処理対象物	一般廃棄物（生活ごみ・事業系ごみ・環境美化ごみ・粗大ごみ・動物の死体） （粗大ごみは、粗破砕機(3.2t/h)にて破砕後、ガス化熔融炉へ投入）		
	処理能力	450 t/日 (225t/日×2 炉)		
	処理方式	シャフト炉式ガス化熔融炉		
	余熱利用	形 式	廃熱ボイラ+発電	
		定格出力	13,500 kW	
	稼働条件	稼働時間	24 時間運転	
		稼働日数	330 日/年	
	煙突条件	煙突高さ	80 m	
		頂部口径	1.3 m	
	排ガス温度	175 ℃		
	排ガス条件 (1 炉あたり)	湿りガス量	82,800 m ³ _N /h	
		乾きガス量	68,880 m ³ _N /h	
		酸素濃度	9.3 %	
		硫黄酸化物	20 ppm(酸素 12%換算値)	
		窒素酸化物	50 ppm(酸素 12%換算値)	
		ばいじん	20 mg/m ³ _N (酸素 12%換算値)	
		塩化水素	20 ppm(酸素 12%換算値)	
		水銀	0.05mg/m ³ _N (酸素 12%換算値)	
	ダイオキシン類	0.1ng-TEQ/m ³ _N (酸素 12%換算値)		
年間排出量 (2 炉合計)	硫黄酸化物	28,368 m ³ _N /年		
	窒素酸化物	70,919 m ³ _N /年		
	ばいじん	28,368 kg/年		
	塩化水素	28,368 m ³ _N /年		
	水銀	70,919 g/年		
	ダイオキシン類	142 mg-TEQ/年		

注) その他の施設としてガスエンジン発電機がある。

(4) 工事計画

工事工程表は表 3-2 に示すとおりであり、本事業の建設工事は平成 22 年 6 月着工、平成 25 年 3 月竣工予定とする概ね 3 ヶ年の計画としている。

表 3-2 工事工程表

工事 \ 年度	H22	H23	H24	H25
基礎工事	←→			
建築工事		←→		
プラント工事		←→		
外構工事			←→	
試運転			←→	

4. 事後調査の方法

事後調査の項目、調査地点、調査時期、並びに調査方法は表 4-1 に示すとおりである。

表 4-1(1) 事後調査の方法(工事中)

環境項目	調査項目	調査地点	調査時期	調査の方法	報告時期
騒音 振動 交通量	道路交通騒音 道路交通振動 交通量	八幡三宝 線及び大 阪臨海線	時期：工事の最盛期 頻度：平日 1 回 (時間帯:6~22 時)	騒音：JIS Z8731 振動：JIS Z8735 交通量：カウント	調査翌年度 4 月に提出
廃棄物	種類、発生量	工事現場	時期：工事期間 頻度：1 年間	廃棄物の処理実績 を集計	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告
安全	工事用車両等 の搬入台数	工事現場	時期：工事の最盛期 頻度：月毎	工事現場でカウ ント	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告
水質	pH、濁度 有害物質	雨水排水 路もしくは 下水道 への排出 口	時期：工事期間 頻度：常時監視 時期：工事期間 頻度：適宜	pH、有害物質：環 境庁告示第 64 号 排水基準に係る検 定方法 濁度：JIS K0101	毎年度 4 月に 前年度報とし て報告

表 4-1(2) 事後調査の方法(施設の供用)

環境項目	調査項目	調査地点	調査時期	調査の方法	報告時期
大気質	ごみ処理施設 煙突排ガスの 排ガス量、硫黄 酸化物、窒素酸 化物、ばいじ ん、塩化水素、 ダイオキシン 類、水銀	ごみ処理 施設の煙 道	時期：供用開始後1年間 頻度： ばい煙の測定 年6回 (硫黄酸化物、窒素酸化物、 ばいじん、塩化水素) ダイオキシン類 年1回 水銀 年1回	サンプリング分析	調査翌年度 4月に提出
	硫黄酸化物、窒 素酸化物、浮遊 粒子状物質	事業計画 地周辺の 一般環境 (三宝小 学校)	時期：供用開始後1年間 頻度：1年間連続(1時間値)	堺市が測定してい る常時監視局(三 宝局)データの提 供を受ける。	調査翌年度 4月に提出
	塩化水素、水 銀、ダイオキシ ン類		時期：供用開始後1年間 頻度：四季、1週間(24時間 値)	環境大気サンプリ ング	調査翌年度 4月に提出
	窒素酸化物、浮 遊粒子状物質	大阪臨海 線	時期：供用開始後1年間 頻度：1年間連続(1時間値)	自動測定器及び環 境大気サンプリ ング	調査翌年度 4月に提出
	ベンゼン		時期：供用開始後1年間 頻度：四季1日(24時間値)		調査翌年度 4月に提出
	窒素酸化物	築港南島 線、八幡三 宝線及び 大阪臨海 線	時期：供用開始後1年間 頻度：四季1回(1週間値)	PTIO法	調査翌年度 4月に提出
悪臭	臭気指数	ごみ処理 施設の煙 道	時期：供用開始後1年間 頻度：夏季1回	「臭気指数及び臭 気排出強度の算定 の方法」(平成7年 環境庁告示第9号)	調査翌年度 4月に提出
		敷地境界2 地点	時期：供用開始後5年間 頻度：夏季1回		毎年度4月に 前年度報とし て報告
騒音 振動 交通量	道路交通騒音 道路交通振動 交通量	築港南島 線、八幡三 宝線及び 大阪臨海 線	時期：供用開始後1年間 頻度：平日1回 (24時間連続)	騒音：JIS Z8731 振動：JIS Z8735 交通量：カウント	調査翌年度 4月に提出
廃棄物	種類、発生量	工場内	時期：供用開始後1年間 頻度：1年間	廃棄物の処理実績 を集計	調査翌年度 4月に提出
安全	収集車等の搬 入台数	工場内	時期：供用開始後5年間 頻度：月毎	工場構内でカウ ント	毎年度4月に 前年度報とし て報告
地球 環境	燃料等の種類、 使用量	工場内	時期：供用開始後5年間 頻度：1年間	燃料等の使用量の 処理実績を集計	毎年度4月に 前年度報とし て報告

5. 事後調査の結果の記載様式及び結果の検証

事後調査の結果は、対象項目ごとに、あらかじめ定めた記載様式に記入し、その結果の検証は、対象事業の実施状況、評価の指針等を勘案して行うものとする。

該当事業が原因で環境保全上問題があると認められた場合には、適切な措置を講ずることとする。

なお、評価書に記載の環境保全対策及び市長意見等（準備審査書）に対する事業者の見解についての履行状況についても事後調査結果と併せて報告するものとする。